

## 第二回「ふげん社写真賞」グランプリ受賞作

# 川口翼『心臓』

1999年静岡県生まれの川口翼は、2021年に東京ビジュアルアーツを卒業後、2022年に第二回ふげん社写真賞グランプリを受賞しました。現在は、製本会社に勤めながら、東京で作家活動をしています。

色調がややマゼンタ調に傾く壊れたカメラと出会ったのをきっかけに、故郷の「あの夏」を懐古する写真と、現在と未来を意識した「この夏」をカラーで撮影しました。夏になると「記憶の飛び地」が現れるようになる、と語る川口は、蝉、雑木林、ひまわり、砂浜、虫取り網と川べり、校庭、家族などを被写体に、写真ならではの自由な時間軸の中で、私たちの集合的記憶にある夏のシーンと共振していきます。

写真は何かを表現するための手段ではなく「写真は写真として始まり、写真に化け、何事も語らぬまま一切の形容を拒否し続け、写真として終わって欲しい」と語り、その純度にこだわる川口は、自らの第一写真集を心臓と名づけました。その作家の思いを具現化した、町口覚氏による造本は、本体には写真のみが収録され、テキストはカバーに印刷されます。さらに、本体とカバーの間にエアが入り、ポンプのように脈打つ構造になっています。

写真の力を信じて進む作家が差し出した写真集『心臓』が、誰かの無意識部へと到達し、伝播することを願います。

「ここには思慕のベクトルの違う同じ二つの季節が共存している。

陽炎に揺れる、真っ直ぐ伸びる帰り道の、そのパースの消失点の如く、

過去と現在とそれから未来、あやふやに揺れる時の交点がここには在る。

僕ら人間と違って、写真はすべての時に同時に立つことが出来る」(作家テキストより)

プロフィール：川口翼 Tsubasa Kawaguchi

1999年、静岡県生まれ。東京ビジュアルアーツ卒業。個展に「THE NEGATIVE」(2021年・TOTEM POLE PHOTO GALLERY)、「夏の終わりの日」(2022年・コミュニケーションギャラリーふげん社)、2022年、清里フォトアートミュージアム作品収蔵。同年、第2回ふげん社写真賞グランプリ受賞。



熱を帯びたこのあたりが  
火照る肌さながら赤くなる  
蝉が鳴き  
思い出し忘れていく、その光景  
写真のままで どうしようもなく  
ざわめくここが 心臓だった  
夏の日

(作家テキストより)



川口翼『心臓』

2023年6月30日発行

写真・テキスト 川口翼

造本設計 町口覚

発行人 渡辺薫

発行所 ふげん社

価格：¥6,200(税別) 判型：A4変形

ISBN：978-4-908955-22-8

▶ご注文はツバメ出版流通まで

FAX：03-3721-1922

TEL：03-6715-6121

mail：info@tsubamebook.com

http://tsubamebook.com

貴店名(番線印)	新刊 ふげん社	https://fugensha.jp https://www.shashin.tokyo/ 返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通：川人
ご注文数	川口翼『心臓』	ISBN 978-4-908955-22-8 C0072 定価：6,820円(本体6,200円+税10%)
ご担当： 様		